



「今日」行動したものだけが「明日」の運命を変えられる

誰に対しても、時間は平等に流れます。生きていれば、必ず明日がめぐってきます。何かに一生懸命に打ち込んでいる人にも、ただなんとなく日々を過ごしている人にも、平等に明日がめぐってきます。明日を、思うように生きられる人は「今日という今」を、一生懸命に生きている人です。明日は、一番近い私たちの将来です。その明日のくり返しが、未来になっていきます。未来は、遠い先の事でさえ、「今日という一日を自分自身がどう生きるか」の積み重ねです。先生は、今までたくさんの失敗や挫折を経験しましたが、その自分自身でやってきた経験の中で学んだことは「やらずに後悔するよりも、やってしくじる方がずっといい！」ということです。まずはやりたいと思うこと成りたいと望むことです。そして、思っているだけではなく、それを実現するための「具体的な努力をする」ことです。自分で努力してきたことや、思いきって、勇気を出して行動した結果が、成長や成功につながった時の嬉しさは、何にも変え難いものだと思います。どんな時でも、自分で自分の力を諦めてはいけません。誰でもなく「自分自身が最初に」自分をあきらめてしまうのは、とても悲しいことです。

失敗や挫折、うまくいかないことなんて、生きていればいっぱいあります。

大切なのは「今、できない」自分を嘆くことではなく、「今、やらない」自分を勇気づけることです。今日という日に行動できる君なら、きっと明日という日、そして、その明日に必ずつながっている。君自身の未来を、自分の手で描いてゆけるはずです。心から、そう思います。



第29回国頭地区春季バレーボール大会を終えて

(上原 恵葉)

○名護戦を振り返ってみて、強打レシーブの部分でたくさんチームに迷惑をかけてしまって、まだ不安定だと再確認することができました。次の中体連で最後の地区大会となるので、コースを予測して、どんなボールでも全部とれるように、気を抜かず、練習を頑張っていきたい。チームでは、始めの一步が遅く前のボールを落としたりしていたので、スプリットステップだったり、低い姿勢で構えることを意識して頑張る。

(安里 衣珠)

○今回は、1点に喜ぶことはできたけど、ミスが続いて悪い雰囲気になることが多かったと思います。サーブカットが苦手なのが、改善されてなくて、残りの時間、自分がどこのポジションにいても、ミスしないプレーを増やしていきたいです。また、決めないといけ、入れないといけ、と分かっているけど、思うようなプレーができなかったのも、上位をとった女子チーム、優勝した男子のスパイカーのように活躍できる人になりたいです。

(仲本 梨里)

○今大会を終えて、とても惜しい結果にはなったけれど、やっぱり負けは負けで、これからの行動を大切にしないといけないということで、バンドを見返すときにちゃんと振り返らずだらけてしまったりなど本当に悔しいと思っていないような行動を取ってしまったことが反省すべき点だと思いました。特に、私を含め3年生3人は中体連まで残り3週間もないので、改めてこれからは「勝つチームの行動」というのを意識しながら学校生活を過ごすようにしたいと思いました。また、先生に言われずとも何かをやったり、自分から進んで攻めた行動をとったり、自分やチームに足りないことをもう一度考え直したいです。

栄冠！

（真栄田 芹奈）

○春季大会を終えて、良かった点は個人では、目標にしていたことをほとんど達成できたことです。だけどもっと目標にすることのレベルを上げてその目標を達成したいです。また、チームでは1セット目のサーブカットで連続ミスしてしまって雰囲気落ちてしまったところが課題点だと思いました。伊平屋は他の監督からもつなぎが良いと言われているから繋ぎを活かすことや圭介先生や他の先生方とも言われたもっと勝ちたい！という姿勢をこれから見せて3年生と残りの期間の練習を大切にしながら中体連につなげていきたいです。

（上地 美桜）

○今回の大会では、雰囲気良く「伊平屋中」の声出し、明るさが保てたのが良かったです。でも、1セット目の出だしが悪くて、それをサーブやラリーして決めて流れを切らないといけないけど、そこでいつものプレーが上手くできなくて、ネガティブになって、スパイクミスが続いて、サーブキャッチミスが続いて12対25という点数で抑えられて、2セット目はみんなで出だしを意識して、10点差ついて、22対12までできたけど、相手に2点続けて点を取られたら、そのまま一気に23対24まできて、悔しい結果で終わってしまったのが改善点だと思ったので、部活の大人との練習試合では、15対0からお願いして、どうしたら逆転できるのかなど、一つ一つの練習の質を上げてレベルアップした「伊中汝バレ」で中体連に挑んで優勝したいです。

（新城にこ）

○今回の大会を終えて、まずは一校先生や圭介先生が言っていたように前回の大会に比べて全然必死さが足りなかったと思います。カバーの一步、ネット際の一步で「名護だから負けても」という気持ちがチーム全体に広がって雰囲気も少しずつ悪くなってしまったのがチームにとっても、個人でも改善点だと思います。次の大会は中体連で3年生と一緒に出る最後の大会なので、「あるときカバー行っとけばよかった」や「さっきのいけたかも」という後悔をなくせるように倒れるまで全力でボールを追ってアベック優勝します。

（照屋 優心）

○今回の大会で学んだことは、「勝ちたい」と「勝てたらいいな」の気持ちの違いを学びました。みんな初戦、名護だからという気持ちがあって後半追い上げられて、でもその試合の後は負けた悔しさが見られない行動をしていたことは、まだまだ気持ち（行動）の課題だと思いました。また、この大会では1セット目サーブカットが悪かったりがあったので、チームも自分の課題でもあるので少しずつでも克服していけたらと思います。これから、中体連までの短い間で成長できたプレーができるように頑張りたい。

（麻生 優月）

○春季大会を終えて、まずベンチにいる時の声出しでは、声は出せたけど、みんなの雰囲気とかをあげることができたかなって考えるとそうじゃないなって思ったから、今度の大会では後からもっと声出せば良かったとか思わないように全部出し切りたいです。プレー面では、自分は腰が高くて上にあげきれない、ボールとか足が出ないボールがあったからあと2週間腰の高さをしっかり意識して頑張っていきたいです。

（嶺井 璃虹）

○今回の大会では悔しい結果で終わってしまって良いところはたくさんあったけど、全然攻めきれてなかったのであと少しの時間しかないけど、中体連に向けて外練でメンタルを鍛えたり、自主練や毎日の練習で技術アップして次は良い結果を残していきたいと思います。

(江本星)

○今回の大会を振り返って、全体的に良かった所は、1点を決めたら全力で喜ぶことができたことです。そして課題は、まず今回の名護戦への挑む時の気持ちがバラバラになっていて、「勝つ」よりも他の気持ちが強かったからストレートで互角のチームに負けたと思います。また、個人の良かった所は、声を出してコート内の仲間に声をかけたり、自分からボールをカット(サーブカット)できたのが良かった所です。そして改善点は、ポジションをよく理解せずにプレーしていてストレートのコースに入らずにセンターにいて、ストレートを狙われて点数をとられるもったいないミスをしたので、次の夏の中体連で後悔しない大会にして3年生を楽しませます。そして中体連に向けて自分に何ができるのか、考えて日常生活でも「攻める姿勢」をしていきます。

(伊禮香穂)

3)

○試合を見ていて1番の課題点は、サーブカットだと感じました。1セット目も2セット目も、相手チームの名護はサーブ強くて、あと1歩足が動かなかったり、たくさんミスがあったからです。また、2セット目は10点ぐらいリードしていたけど、そのあと追いやられてしまっていたので、勝ち方にこだわりながらプレーしたらもっと良くなるのかなと思いました。

【チームの目標】

地区優勝

心	自分の感情に負けず、チームの一員という自覚をもって、発言・行動をする
技	1つのプレーに執着心と仲間を思ったプレーで皆で一点を取る!!
体	ぎっ い 外 練 ぞ も、 前 向 き な 声 け を し、 最 後 ま で あ き め る 頑 張 る。